

2 課題研究交流会

(1) 研究開発の課題（研究概要）

課題研究に取り組む高校生が、大学の研究者から直接アドバイスを受けられる機会を作る。このような機会を作ることで、高校生の課題研究の質を向上させ、意欲や論理的に考える力を高める。また、高校生同士が互いの研究を知り、議論することで研究を深める。



ポスター発表の様子

(2) 研究開発の経緯

多くの科学コンテストは、研究成果が評価される場になっており、研究で生じた問題点や疑問について質問ができる場にはなっていない。本交流会は、生徒が自分の研究概要を簡単に説明した上で、研究上の疑問や問題点について相談ができる機会として設定している。また生徒間で議論することで互いに学びを深める機会とした。

ア 研究の内容・方法

課題研究についてのポスター発表と研究者によるアドバイス、生徒間でのディスカッション

イ 連携先 名古屋大学理学研究科・多元数理科学研究科・環境学研究科

ウ 参加者 県内高等学校 生徒169名、教員22名 中学生1名、本校0B・0G11名
生徒：岡崎24名、向陽26名、豊橋東15名、半田33名、名城大附2名
明和10名、一宮59名

教員：岡崎1名、向陽1名、豊橋東1名、半田2名、名城大附1名、明和3名
一宮13名

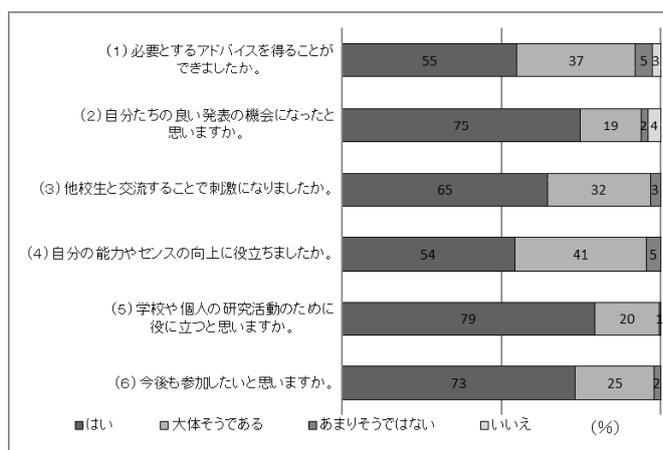
エ 日時場所 令和元年 8月 2日(金) 10時00分～15時30分
名古屋大学理学部南館

オ 実施内容（注意・工夫した点）

ポスター発表の前に、ホールで1分間のプレ発表を行い、参加者が全ての発表の要旨を確認できるようにした。また、ポスター発表は前半と後半に分け、発表者も多くの発表を見られるようにした。

カ 検証（成果と反省）

生徒アンケートでは、多くの生徒が「必要とするアドバイスを得ることができた」と答えており、事業のねらいである高校生の課題研究の質の向上を図る良い機会となったと考えられる。また、「他校の生徒と交流することが刺激となった」と答える生徒も同様に多いことから、高校生同士が互いにそれぞれの研究成果を理解し、議論することが自分たちの研究に対するモチベーションを高めることにつながったと考えられる。



参加生徒の感想から

- ・大学の先生や院生からアドバイスがもらえ、次の展望がみえた。
- ・他校の高校生の研究を見ることができて、自分もやる気になった。

参加生徒のその後の追跡調査をすることで、本企画の成果を把握するとともに、広く成果報告をすることや参加呼びかけを強化するなど会の充実を図っていきたい。